

1 ご使用時の注意点

■ 燃料材として利用できるもの

十分に乾燥した(水分率13-20%を推奨)薪
特に落葉樹(堅木: 樺、楠、クスギ、ブナや果樹: リンゴなど)を推奨します。
その他、正しい薪の長さ、量を守ってご使用ください。
乾燥不良の薪を燃やすと「不完全燃焼」を起こし有害ガス、煤を発生させ、
本体、ガラス、排煙筒などに煤が付きやすくなりますのでご注意ください。

薪の点火には、「新聞紙」「カートン」「液体燃料」などは使用しないでください。
細く小割にした木材、割り箸など着火しやすい「木材」から点火してください。

樹脂注入された木材、合板、木製パレットに使用された木材、チップボードなど接着剤や樹脂を
注入した木材は絶対に燃やさないでください。
これらを燃焼させると、有害ガスが大量に発生して大気汚染を引き起こします。
またストーブ本体、排煙筒の寿命を一気に縮めてしまうためご注意ください。

初火入れにおいては、本体、排煙筒の塗料が煙を発生させることがあります、
有害物質を含んでいません。しかし臭いなどが部屋にこもる場合がありますので、十分に
換気しながら火入れを行ってください。

■ 一般操作方法

ドアの開閉について

開けるときはドアハンドルを手前に引いてください。
閉めるときは逆にハンドルを本体側に押ししてください。
ハンドル付近、本体は熱くなっていますので、耐熱グローブなどを必ずご使用ください。
薪の燃焼時、ドアは基本的には閉めてご使用ください。
ドアを開けたままの使用は火事、煙の逆流など思わぬ事故を引き起こします。

灰受けドアについて

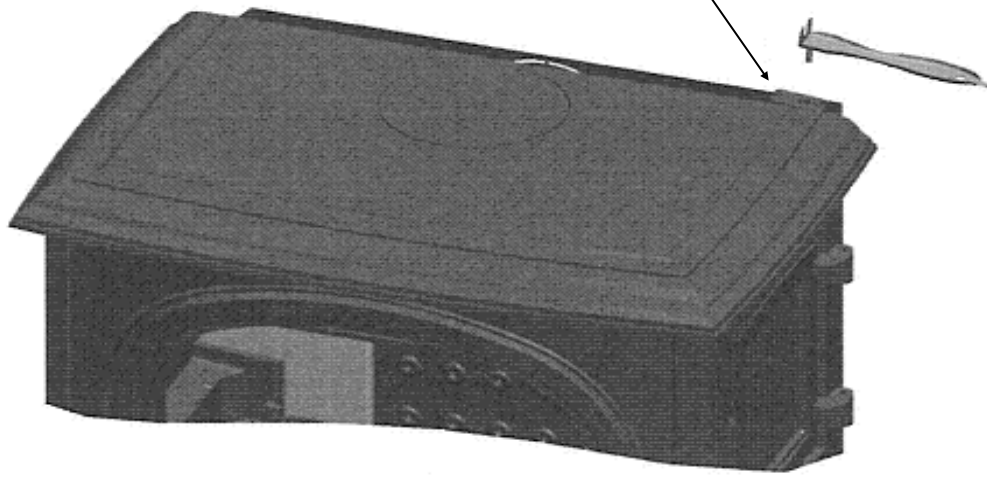
ストーブ燃焼時には、必ず灰受けドアを閉めた状態でご使用ください。
開けたまま使用すると思わぬ量の空気が供給されたりして危険です。
灰は使用直前に消火を確認して処分してください。できれば金属製の灰入れなどを
ご用意ください。プラスチック、木製などの灰入れは思わぬ火事を引き起こしますので
ご使用にならないでください。

燃焼空気の供給について

燃焼空気の流量調節は本体裏側のつまみで行えます。

必ずレバー、耐熱グローブを使用してください。

空気量調整つまみ



空気量調整つまみの位置を左右に動かすことで空気の量を調節できます。

もっとも「右」にした場合 : 最大空気量を供給します。

もっとも「左」にした場合 : 最小空気量を供給します。

中間位置の場合は通常燃焼時に必要な空気量を供給します。



薪の着火方法について

1. 空気量調整つまみを一番「右」(最大供給)にあわせてください。
併せて本体後部の空気調整レバーを一杯に引くと着火しやすくなります。
この本体後部の調整レバーは火が安定した段階では閉めてください。(レバーを押し込む)
2. 前部ドアを開けて、適量の着火用木材(小片)を盛り上げるように積み上げてください。
このとき、空気が木材小片の間を通るように隙間を多く作って積み上げてください。
3. 積み上げた木材小片の下になるように着火剤を2-3個設置してください。
4. 3より少し太い木材を上に乗せてください。
5. 着火剤に点火してください。このとき火傷などしないように耐火グローブなどを
着用してください。(着火マンなどの着火専用道具のご利用が安全、便利です)
6. 先に投入した木片が確実に着火していることを確認して前部ドアをしっかりと閉めてください。
7. 天候不順(強風、大雨、霧)などで十分なドラフトが発生しない場合は、うまく着火しないことが
あります。この場合は天候が回復するのを待って再度1から始めてください。

薪の追加投入について

薪を正常、かつ最適に燃焼させるため(即ち煤、未燃焼ガスの発生を最小限に抑えるため)に、
下記のことを守ってください。

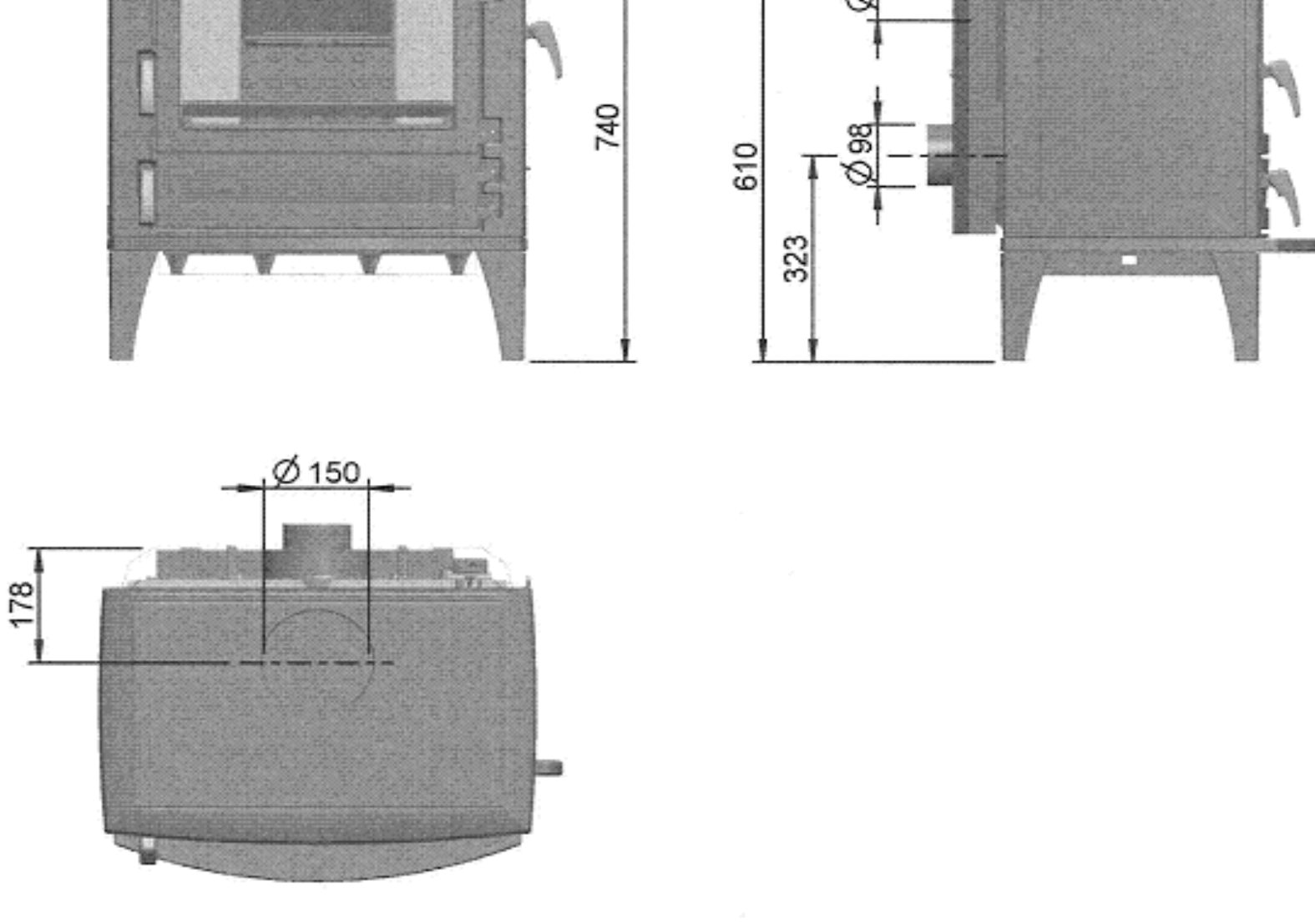
1. 追加の薪は一回あたり2-3本(重量にして2kg程度)を2層になるように投入してください。
2. 新たに投入した薪に着火するまでは、空気流量つまみを「右」(最大流量)にあわせてください。
3. 追加した薪が燃え始めたことを確認して空気流量つまみを調節してください。
このとき本体背面の流量レバー(本体下部からの空気を調整する)は1/4程度開けてください。
4. 追加した薪の量や空気流量が多すぎると本体の過熱を引き起こし製品寿命を短くする恐れがあるので
本体表面温度200-250℃を目安に燃焼を安定させてください。

2 メンテナンス(保守点検)

お買い上げいただいたストーブを長くご愛用いただくためのメンテナンスについてご説明します。

■ 燃焼灰の除去

灰受けに溜まった燃焼灰は灰入れ(灰受け)が満杯になる前に空にしてください。
燃焼灰が本体燃焼部の下にあるグリルまで届くと、グリルを含めた鋳物部品が常時高温になり
グリルが溶ける場合があります。



8. もし、ガラスが破損した場合は、使用を中止して設置業者に連絡の上ガラスを交換してください。
破損したままの使用は思わぬ事故を招く恐れがありますのでご注意ください。

■ オフシーズンのお手入れ管理について

各部の清掃を終えたら、製品をより長く快適にお使いいただくため、下記の管理をしてください。

1. 排煙筒と本体の接合を解いて、本体に余分な湿気などが入らないようにしてください。
2. 本体ガラスにおいても、締め付けネジをすこし緩めてガラスに掛かる圧力を減らしてください。
3. 適宜本体につもったチリなどを、掃除機を使って掃除してください。

■ オンシーズン直前の準備について

ストーブをお使いになる前に、接続筒、排煙筒を分解して溜まった煤、タールなどを取り除いてください。
シーズン直後には湿潤状態で掃除しにくかった煤、タールが春夏を越えて乾燥し、掃除しやすくなっています。
お使いの排煙筒の直径にあったブラシを使って丁寧に取り除いてください。

3 トラブル解決のヒント

薪ストーブをご使用になる際、トラブルにどのように対処すればよいかのガイドラインです。

事象	原因	対策
薪がよく燃えない	薪が湿っている	乾燥した良質な薪を使う
	指定燃料以外を使っている	同上
	排煙筒のドラフトが低い	排煙筒に隙間がないかチェックする クリーニングハッチの詰まりなどを点検する 排煙筒を掃除する
	空気の供給が不足している	空気流量調節レバーをチェックする 外気導入口につまりが無いか確かめる 同じ部屋で換気扇が回っていないか確認する
ガラスが直ぐに曇ったり煤が付く。	薪が湿っている	乾燥した良質な薪を使う
	指定燃料以外を使っている	同上
	薪を大量に投入している	一度に燃やす薪は2-3本を目安にする
	空気の供給が不足している	空気流量調節レバーをチェックする 外気導入口につまりが無いか確かめる 同じ部屋で換気扇が回っていないか確認する
初回燃焼時において 悪臭、煙がでる	塗装の焼付け	初回のみ塗料の焼付けの煙、臭いが発生しますが、時間と共になくなります。

